

3 防災活動いろいろ

【地域での取り組み】 地域では防災に関するさまざまな活動が実施されています



世代をつなぐ地域防災訓練



避難所開設運営訓練の様子①



避難所開設運営訓練の様子②



防災会議



子ども遠足（防災学習）



地域とマンション管理組合の合同防災セミナー

【行政のサポート】 地域で防災に取り組む際には、行政からの支援を受けることができます。

その① 防災出張講座

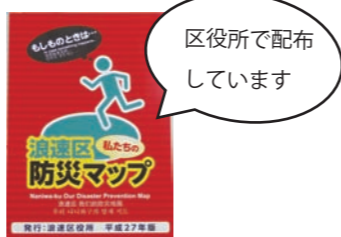
浪速区役所は、防災に関する資料提供や勉強会の開催をサポートしています。数人のグループ活動の場や管理組合へ講師を派遣することもでき、ご近所づきあいのきっかけとして活用いただけます。ご興味のある方は、浪速区まちづくりセンターまでご相談ください。



マンション集会所での防災勉強会

その② 防災マップ配布

浪速区内の避難場所などを案内する地図です。地震が起きた時の行動のしかたや災害時連絡先などが載っています。地震への備えとして、避難場所や道順を確認しておきましょう。



区役所で配布しています

さらに詳しいアンケート結果は浪速区まちづくりセンターで報告書をご用意しています。ご希望の方は下記までお問い合わせ下さい。

浪速区 まちづくりセンター
浪速区役所 6階 602
9:00~17:30 土日祝休 年末年始休
06-6649-0345 (FAX兼用)
mcnaniwa@gmail.com
facebook 7289ラボ(なにわ区ラボ)
http://mcnaniwa.jimdo.com/

ホームページでも案内しています

浪速区まちづくりセンター 検索

7²8⁹Labo マンションアンケート



集計結果【概要版・全地域】

はじめに

浪速区まちづくりセンターでは、2015年8月～9月にかけて、区内のマンションにお住まいの方を対象にした住民アンケートを実施しました。その結果、10棟のマンションで調査することができました。集計結果がまとまりましたので、概要についてお知らせいたします。

調査について

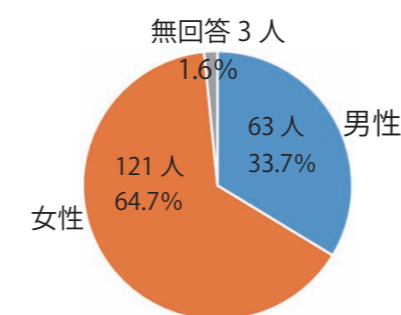
浪速区に暮らす住民の方々の声をお聞きし、今後のまちづくりのヒントをさぐろうと、住宅の約9割が共同住宅という地域の特性に着目。マンションでの暮らしや住民とのつながり、地域活動への関心や参加の実態などをお聞きするためにアンケート調査を実施しました。

調査の概要

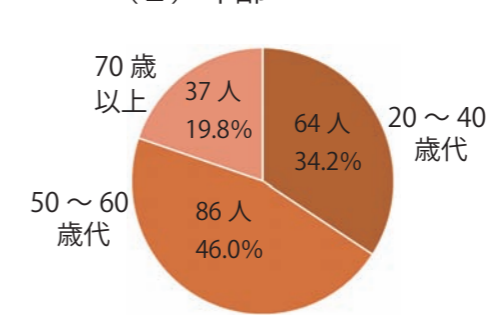
- 調査方法：ポスティングによる配付
(マンション1階ロビーまたは管理員室前に箱を設置して回収)
- 調査地点：浪速区内4地域（難波元町、立葉、塩草、幸町）の分譲マンション10棟
- 調査期間：2015年8月～9月
- 配付数：928通
- 有効回答数：187通
- 有効回答率：20.2%

こんな人が答えてくれました

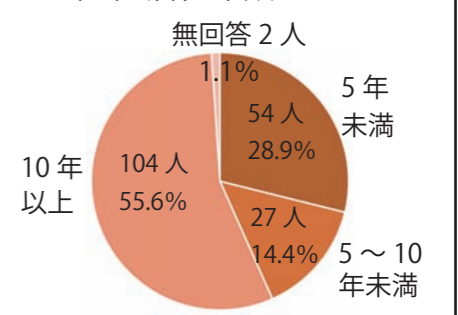
(1) 性別



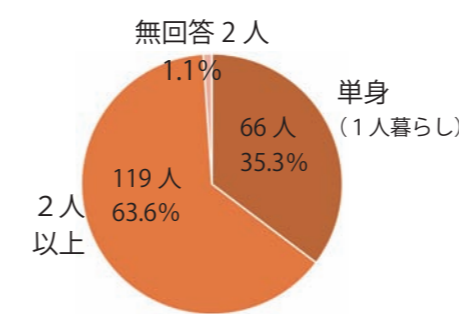
(2) 年齢



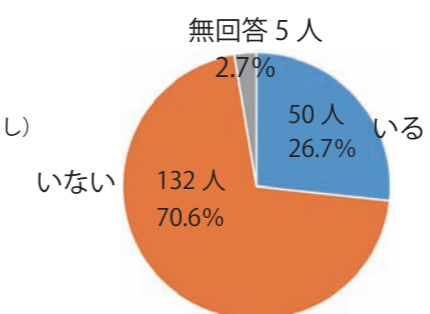
(3) 居住年数



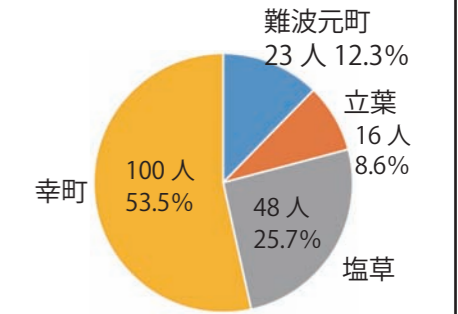
(4) 家族構成



(5) 子ども(20歳未満)の有無

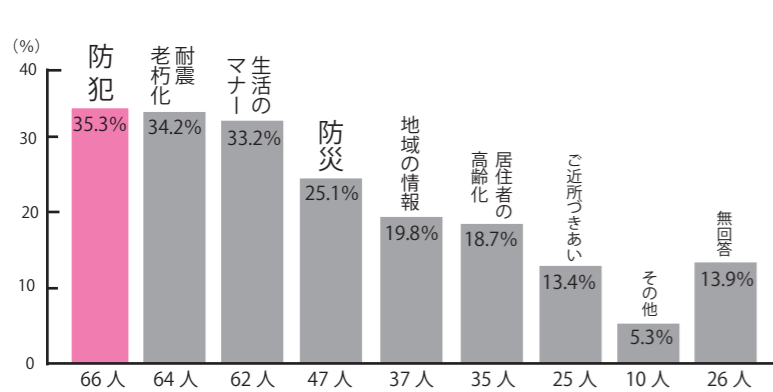


(6) 地域



1 安全・安心への関心が高い結果に

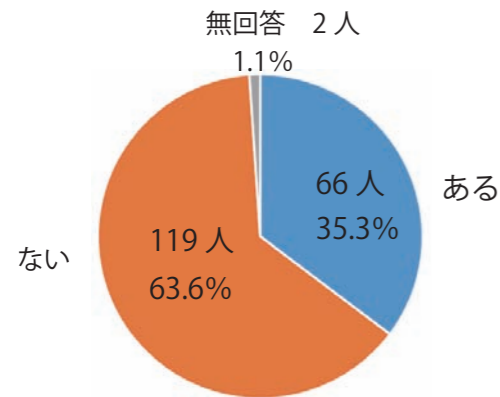
Q. 今、お住まいのマンションで気になっていることは何ですか？（複数回答）



A. 「防犯」が第1位

暮らしの安全に直結する防犯への関心が高最も高い結果になりました。「安心」が長く暮らすための条件のひとつであり、そのためには日頃のご近所づきあいが大切。普段から顔見知りであることが、地域の防犯につながります。

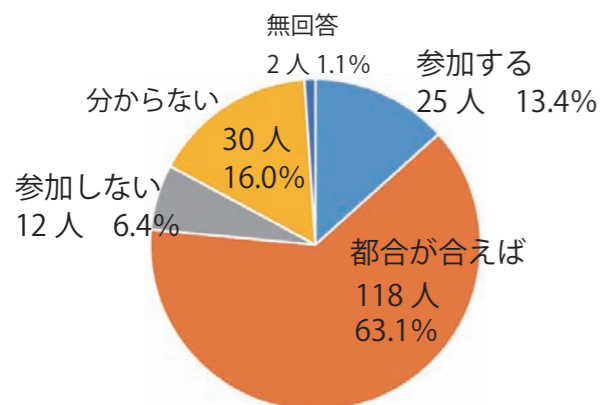
Q. マンションや地域の防災訓練に参加したことはありますか？



A. 「ない」が6割

居住年数が長くなるにつれて、参加経験のある回答者が増える傾向にありました。逆に、子育て世代や土地勘があまりない居住5年未満の世帯では情報がいきわたっていない傾向が見られ、防災訓練への参加率が低くなっています。

Q. 地域やマンションの集会所などでは、行政の支援を受けて防災勉強会を行っています。お住まいのマンションで開催されたら参加しますか？

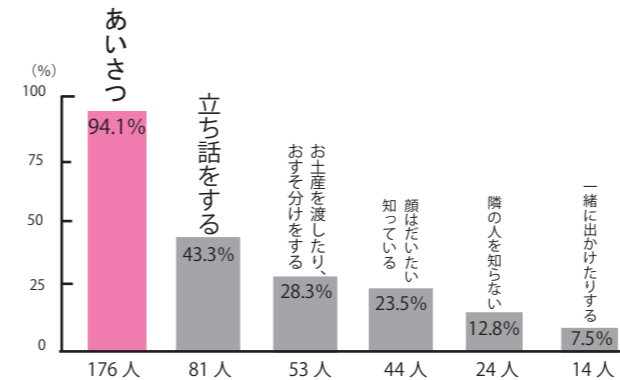


A. 7割は参加意思あり

今後発生が予想される南海トラフ大地震と、それに伴う津波により、浪速区でも大きな被害が予想されています。みなさんの備えは万全でしょうか？いざという時には住民同士での助け合いが不可欠です。また、「都合が合えば」参加したいというキモチにどう応えるか。参加しやすい工夫を探っていく必要があります。

2 マンション住民も「住民のつながりは必要」と感じています

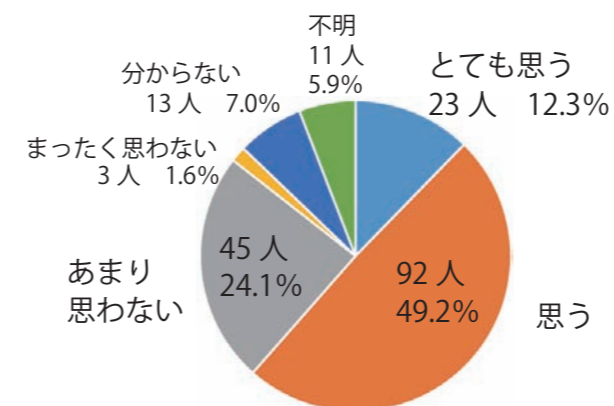
Q. お住まいのマンションでご近所づきあいしていますか？（複数回答）



A. 「あいさつする」が第1位

9割が「あいさつ」と回答しており、家族構成を問わず高い傾向にありました。特に、単身世帯よりも2人以上の家族がいる世帯のほうがコミュニケーションが活発なようです。

Q. マンション内や、マンション周辺の住民とのつながりは必要だと思いますか？



A. 6割が「必要」だと考えています

一般的には、「マンションに暮らす人は地域への関心がうすい」といわれています。普段からのおつきあいを通して、人間関係をつくり、困った時には助け合うという考え方は住宅の形態には関係ないということが分かりました。建物や階が違うなど知り合う機会が少ないなかで、つながりづくりのアイデアが必要です。

Q. どんな場面で、住民とのつながりは必要だと思いますか？

- 防犯 防災**
 - ・災害発生時、防犯等（50～60歳代男性）
 - ・不法侵入者が出現しても、居住者かどうか分からないケースが起こる（50～60歳代男性）
- たすけあい**
 - ・災害や事件など何かあった時に協力し、助け合える環境は必要だと思います（20～40歳代女性）
 - ・何かあった時に住民のつながりがあれば、助けたり助けられたりできる（50～60歳代女性）
- 見守り**
 - ・子どもが1人で出歩くようになると、たくさんの知り合いの目があったほうが安全だと思う（20～40歳代女性）
 - ・お隣さんと話をしたりして、おたがい元気なことを知る（50～60歳代女性）
- 交流 情報交換**
 - ・同じエレベーターに乗り合わせた時に、あいさつをしたり、話すことだけでも気持ちが良いので（20～40歳代女性）
 - ・色々な情報を話し合うことが必要（70歳以上女性）